

原則之彙

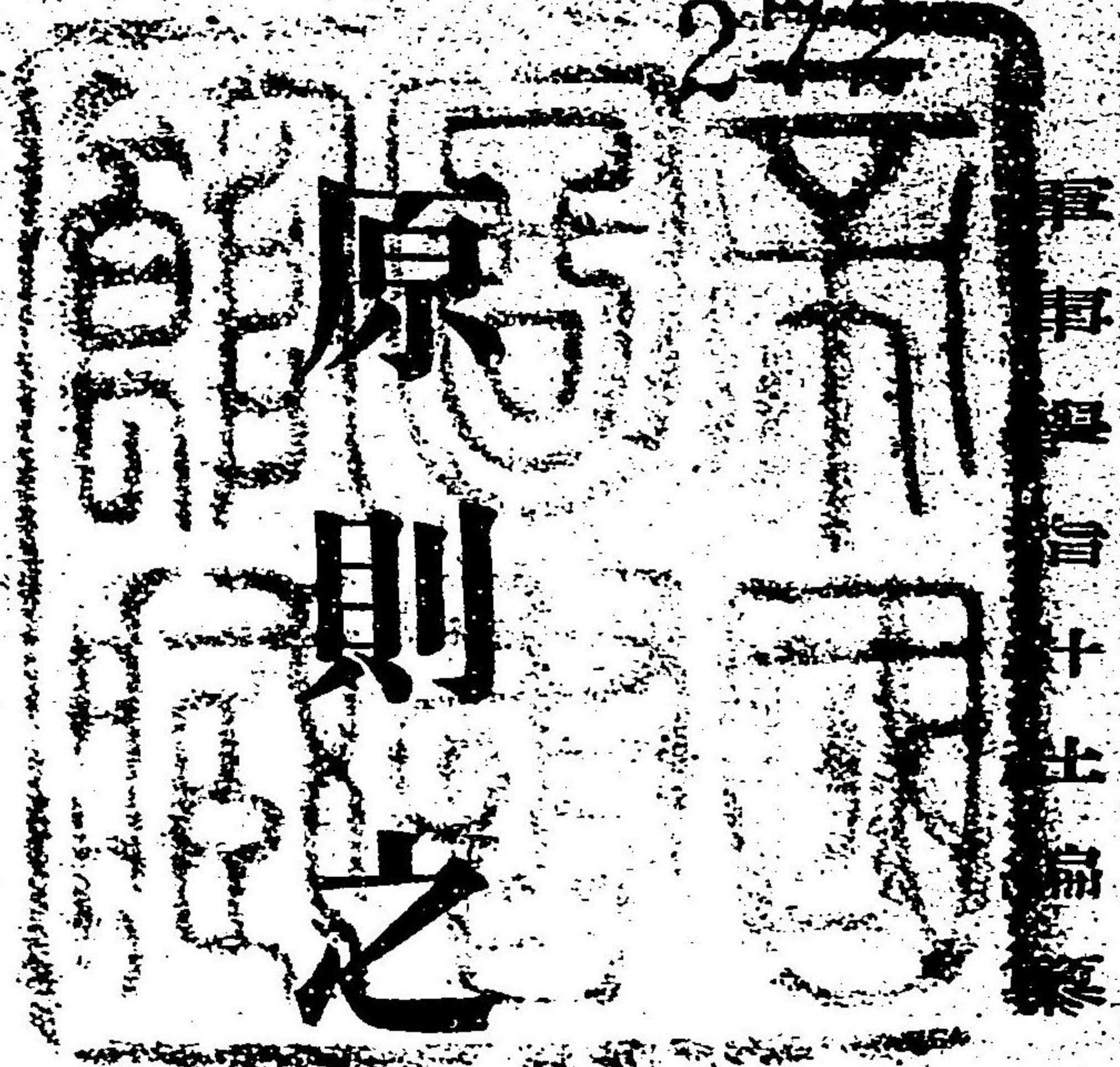
第五篇

東京軍事學指針



特65

272

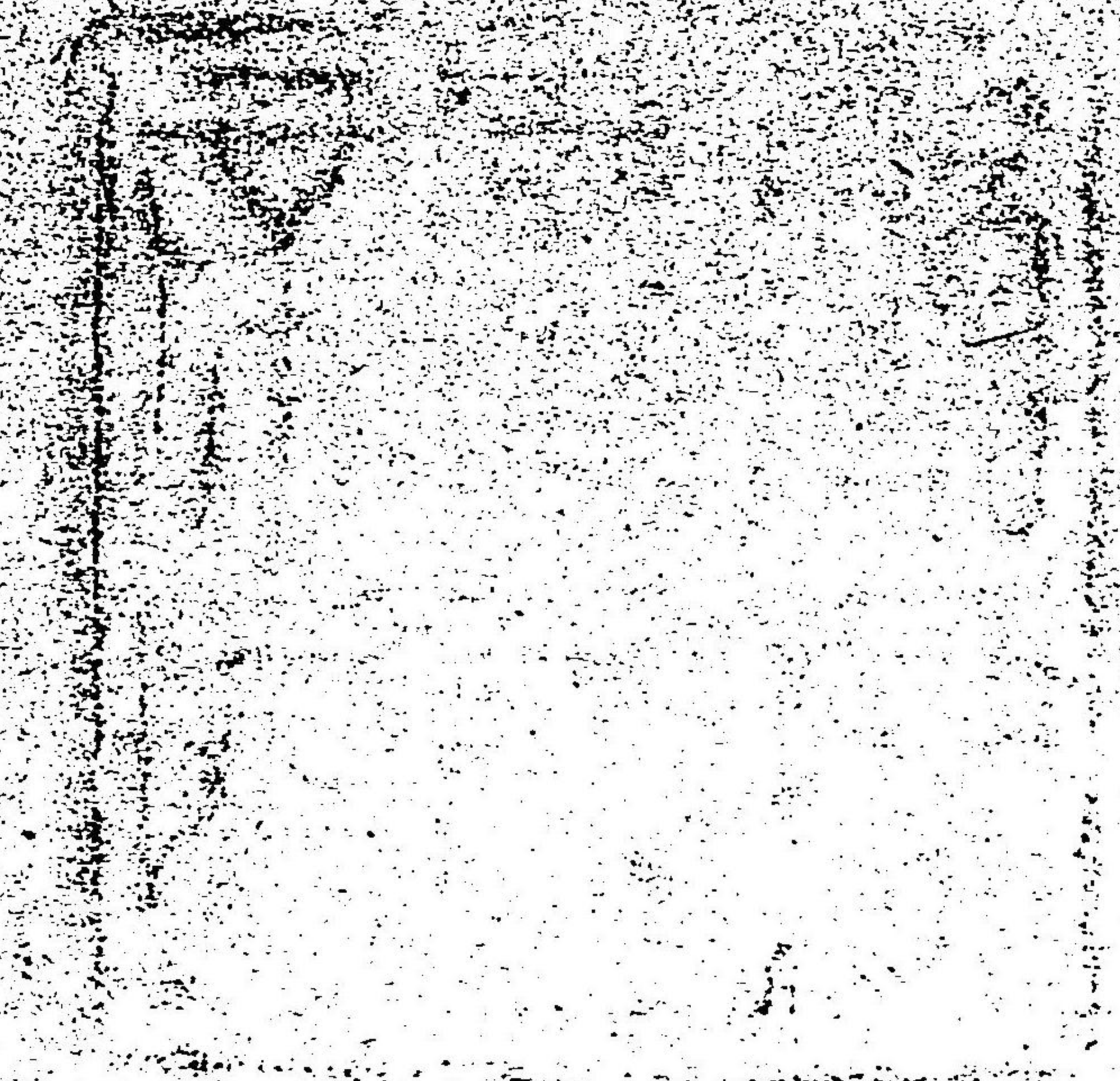


葉

第五篇

明治
44.7.14
内交

東京
軍事學
指針社



原則之葉 第五篇目次

準備陣

- 準備陣ノ定義……………一頁
- 準備陣占領ノ場合六ヶ條……………二
- 準備陣地ニ具備スヘキ要件……………三
- 防禦ノ目的ヲ以テスル準備陣地占領法……………四
- 準備陣地占領ノ命令……………一〇

突撃戦闘

- (一) 決勝準備射撃論ノ消滅……………三
- (二) 突撃實行法……………三

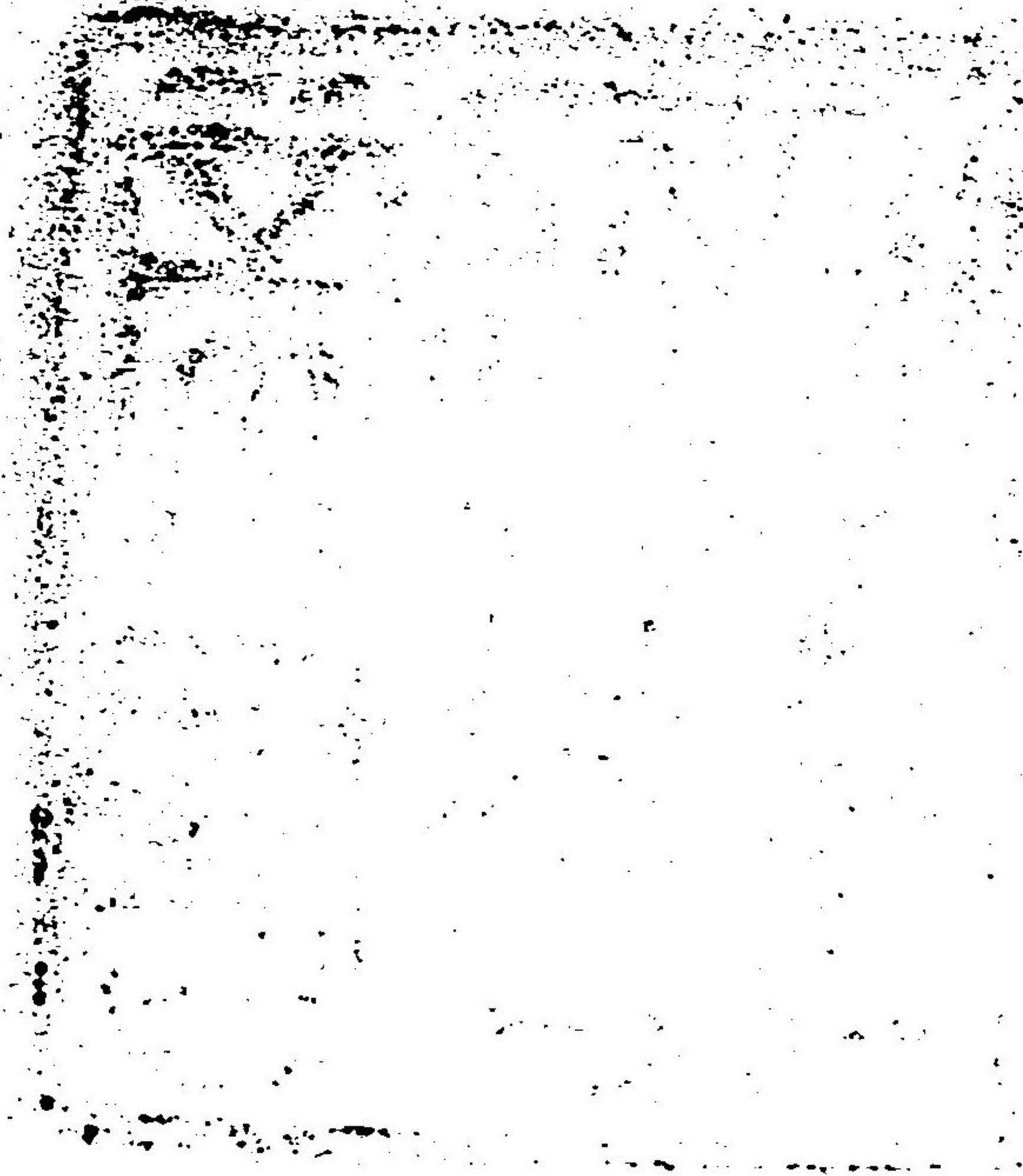
目次

一

(三) 攻撃精神ト突撃戦闘トノ關係……………二六

附 録

騎兵戦闘區分ノ新傾向



原則之棗



(附録) 騎兵戦闘區分ノ新傾向

○準備陣ノ定義

準備陣地トハ情況未タ不明ナル時ニ於テ我カ動作ノ自由ヲ保チ敵情ヲ明ニシタル後處置ヲ決セント欲スルカ爲一時占領スル陣地ヲイフ。

第五篇 準備陣地 突撃戦闘

○準備陣地占領ノ場合

- 情況ノ變化ニ應シ從來ノ方策及處置ヲ變更セサルヲ得サル情況
ニ於テ新方策ヲ決定シ處置スル準據ノ爲、猶一層情況ヲ詳知ス
ルヲ要スルトキニシテ即チ左ノ如シ
- 一、行進方向ヲ決定シ得サル場合
 - 二、攻撃、防禦、退却ノ何レニカ決定シ得サル場合

- 三、攻撃ト決定セルモ其時機ノ至ルヲ待ツヲ要スル場合
- 四、攻撃方面ヲ決定シ得サル場合
- 五、防禦方面ヲ決定シ得サル場合
- 六、其他一般ニ行動ノ標準ヲ得サル場合

○準備陣地ニ具備スヘキ要件

準備陣地ニハ其ノ要求ニ適スルタメ必ス道路網若クハ特ニ偵察撰定
セル縦隊路ニ近接シ各縦隊ハ互ニ妨碍スルコトナク何レノ方向ニモ
進出スルコトヲ得ヘク若クハ敵ニ遮蔽シ其ノ妨碍ヲ受クルコトナク
豫定ノ戦闘陣地ニ進入シ得サルヘカラス而シテ之カタメ之ニ要スル

相應ノ幅員ヲ有スル要ス

準備陣地ニ位置スルコト長時間ニ亘ルトキハ此ノ間ヲ利用シテ炊爨及飲飼ヲ行フコト多シ然ルトキハ軍隊ハ掩蔽シ且其附近ニ於テ薪炭及清水ヲ得ルニ便ナルヲ要ス（附記、尙該地附近ヨリ徵發セル物資ヲ以テ人馬ノ給養ヲ増補シ得ヘキトキハ最可ナリ）各部隊相互ノ連絡ノタメ地形ノ著シク蔭蔽シ若クハ斷絶セルハ不可ナリ敵ニ遮蔽シ且綿亘地ナルヲ有利トス殊ニ前進方向ニ於テ然リ

四

○防禦ノ目的ヲ以テスル準備陣地占領法

防禦ノ目的ヲ以テスル準備陣地ノ占領ハ數多ノ敵ノ攻撃方向ニ對シ之ニ應スルノ姿勢ニアラサルヘカラサルタメ其ノ受働ノ程度極メテ深クシテ敵ノ意圖カ明瞭トナリタルニ至リテ初メテ我カ戰鬪ノ爲ノ處置ヲ爲サ、ルヘカラサル不利ナル状態ニ在リ、故ニ交戦ノ初期ハ一ニ攻者ノ動作ニ從屬セサルヘカラサルヲ以テ此時期ニ於テハ先制ノ利ヲ占ムル如キハ最モ難ク、而シテ之等ノ不利ヲ免レ其ノ處置ノ機ニ遅ル、ヲ虞レテ遂ニ敵ノ行動ヲ臆測豫定シ未タ確實ナル一定ノ攻撃方向ヲ察知スル能ハサルニ先チ過早ナル戰鬪陣地ヲ占領シ爾後却テ動作ノ自由ヲ失フニ至ルコトアリ

故ニ準備陣地ヲ占領セル防者カ機ニ晚レス攻者ノ企圖ヲ洞察スルハ一般ノ防禦ニ比シ極メテ肝要ニシテ騎兵ニ對スル敵情搜索ノ責務ハ

更ニ一層大ナリ

騎兵ハ廣大ナル地域ニ亘リテ敵情ヲ搜索シ且敵ノ爲緊要ナル道路ハ特ニ之ヲ監視シ迅速ニ敵ノ兵力及行進方向ヲ報告スルコトヲ努ム

戰術的能力ニ卓越シ判斷力ニ富ミタル騎兵將校ヲ適宜ノ地點ニ差遣スルトキハ時宜ニ適スル必要ノ事項ヲ迅速ニ知り得ヘク、而シテ此際騎兵ノ抵抗方ヲ大ニシ充分ナル搜索ヲ遂行セシメンカ爲一部ノ支援隊ヲ附屬スルヲ有利トスルコト屢アリ

砲兵(戰鬪陣地ノ後方ニ位置スル)カ決戰ヲ遂行スヘキ線ハ即チ戰鬪陣地ノ骨幹ヲ成形スヘキモノナルヲ以テ過早ナル陣地占領ハ爾後我全隊ノ動作ヲ制肘スル虞アルノミナラス危險ナル時期ニ於テ正面變換若クハ陣地變換ヲ施行セサルヘカラサルノ不利アリ、之レニ反シ

陣地占領遲キニ失スルトキハ防者トシテ火力ノ先制ヲ期スヘキ利益ヲ拋棄スルノミナラス敵砲火ノ下ニ陣地進入セサルヘカラサルノ不利ヲ生ス、故ニ砲兵ノ陣地占領時期ハ又機宜ニ適スル指揮官ノ判斷ニ依ラサルヘカラサルモノニシテ敵砲兵カ猶放列ヲ布カス且其攻撃方向不明ノ場合ニ在リテモ既ニ現出セル一部ニ向ヒ砲火ヲ開始シ其企圖ヲ曝露セシメ且一方ニハ我全砲兵ノ自由ヲモ保持センカタメニハ敵ノ行進方向ヲ遠距離ヨリ制壓シ得ヘキ地點ニ其一部ヲ位置セシメ他ハ豫メ射擊陣地ヲ準備シ置キテ爾後必要ニ應シ迅速ニ全砲兵ヲ使用シ得ヘキ設備ヲ爲シ置クヲ有利ナリトス

步兵ハ其一部ヲ以テ或ハ騎兵ト協力シテ主要ナル道路若クハ渡河點ヲ監視シ且ツ豫定セル戰鬪陣地ニ於テハ敵ノ行進方向ノ如何ヲ問ハ

ス必ス守備セサルヘカラサル主要ナル據點ヲ一部ヲ以テ占領シ以テ
 全隊ノ過早ナル陣地占領ニ陥ラントスル傾向ヲ免ル、ト共ニ戰鬪ノ
 初期ヨリ敵ヲシテ徒ニ其ノ隨意ナル行動ヲ取ルコト能ハサラシム但
 此占領部隊ハ自後各其地區ノ守備ニ任スヘキ豫定部隊ノ建制ニ屬シ
 アルモノナルヲ要シ其ノ兵力ハ必要以上強大ナルヘカラス。

主[○]力[○]

一、軍隊ハ動作ノ自由ヲ保持シ且機ヲ失スルコトナク爾後ノ動作ニ應
 センカタメ勉メテ道路ノ交叉點ニ行軍序列ヲ整備シテ停止スルヲ
 有利トス

二、各部隊ノ命令受領者ヲ爾後行動ノ迅速ヲ計ルタメ各高等司令部ニ
 派遣ス

三、必要地點ニ電話線ヲ架設シ其他ノ通信ノ手段ヲ完備ス

四、停止セル無爲ナル時間ヲ利用シ炊爨ス

之ヲ要スルニ準備陣地ヲ占領スル指揮官ハ敵ニ先制ノ利ヲ占メラル、
 コトナク我動作ノ自由ヲ保持シ得ル如ク軍隊ヲ運用スルヲ以テ準備[○]

陣指揮ノ要訣トナス

○準備陣地占領ノ命令

何々命令 場 月 日 所時

一、敵軍ノ情況

友軍ノ情況

二、我軍準備陣地占領ノ目的

三、騎兵部隊ヲ各前進路上ニ挺進セシメ要スレハ之ニ支援隊ヲ附ス

四、砲兵ハ其ノ一部戰鬪陣地ニ就クカ（行進線射撃ノ爲ノ處置）若ク

ハ歩兵主力ノ許ニアリテ期待ス

五、歩兵ハ其一部ヲ以テ據點ノ占領、工事、警戒、ニ任シ主力ヲ掩護物ノ後方ニ集結要スレハ炊爨ニ關スル件ヲ示ス

六、防禦工事ニ關スル指示

七、工兵ニ防禦設備、後方ニ於ケル架橋等

八、電話線架設ニ關スルモノ

九、衛生隊ニ關スルモノ

十、大行李輜重

十一、指揮官ノ所在地

●突撃戦闘

(一) 決勝準備射撃論ノ消滅

輓近火器ノ進歩ハ遂ニ歩兵戦闘ヲシテ火力ヲ以テ決戦スルヲ常トスルノ主義ヲ唱ヘシムルニ至リタル時代アリキ、從テ此ノ時代ニ於テハ所謂決勝準備射撃ナルモノ現出シ約六百米突ノ距離ヲ以テ彼我ノ勝敗殆ト決定セラレ爾後ハ單ニ殘敵ヲ驅逐スルニ過キサルトナスノ小銃射撃効力ニヨル數理上ノ皮相ノ判決ヲ下シタルモノヲ以テ殆ト原則トシテ採用シタルノ風アリ。之カ爲、白兵主義ハ漸ク兵學界ニ其ノ跡ヲ斷タントスルノ状態ニ至リ、最近ノ戰役ニ於テモ我軍ハ右ノ寧ロ火兵主義ヲ以テ從事セリ。然ルニ最新火器ヲ以テセル戦闘ノ實驗ニ徴スルニ之カ火兵主義ノ全然誤ナルコトヲ證明セラレ、勝利ハ志氣旺盛ニシテ白

兵ヲ揮ヒ不屈不撓ノ精神ヲ以テ敵ト衝突シ格闘ニ次クニ格闘ヲ以テシテ敵ヲ擊破セントスル熾烈ナル攻撃精神ヲ有スル者ニ歸著スルノ經驗ヲ得タリ

(二) 突撃實行法

- 一、先ツ火力ヲ以テ敵ヲ制壓スルコト
 - 二、迅速ニ好機ニ投スルコト
 - 三、成ルヘク統一シテ指揮スルコト
 - 四、旺盛ナル志氣ニ加フルニ猛烈ナル勇氣ヲ以テ斷行スルコト
- 抑攻者ノ理想トスル所ハ一發ノ彈丸ヲモ發射スルコトナクシテ敵ニ近接シ白兵ヲ以テ勝敗ヲ一途ニ決セントスルニアリ。然ルニ兵器ノ進歩ト地形ノ利用ハ守者ノ抵抗力ヲ鞏強ナラシメ、攻者ハ必ス之ヲ破碎シ

テ其ノ成果ヲ收メサルヘカラス、之ニ於テ步兵操典第二部第三十五、ニ射撃ノ効力ハ敵ニ近ツクニ從ヒ益、大ナリ、故ニ各級指揮官ハ絶エス其戰線ヲ前進セシムルコトニ努力スヘシ敵ノ抵抗力ヲ制壓シ我カ前進ヲ容易ナラシムル爲ニハ火力ヲ優勢ニシ且之ヲ維持スルヲ以テ主要ナル條件トス、トアルモノ即チ敵ヲ制壓スルニハ射撃効力ヲ發揚スルヲ必要トシ、効力發揚ニハ益前進スルヲ必要トシ、如斯ニシテ敵ヲ制壓シ最後ニ突撃ノ好機ヲ發見スルニ至ルモノナリ之カ爲操典ヲ參照スルニ

中隊、戰鬥ノ進捗ニ從ヒ損傷ヲ補充シ尙散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ近接シ適時銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄シ得ルニ至レハ中隊長ハ率先先頭ニ立チ突撃ノ法ニ準シ中隊ノ全力ヲ擧ケテ

猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ云々

大隊、敵兵動搖ノ色アルトキハ大隊長ハ直ニ之ニ乗シ大隊ノ全力ヲ揮ヒ率先シテ突撃ヲ實施スヘシ、然レトモ前線ニ在ル各中隊長ハ好機ニ投シ自ラ突撃ヲ決行スルコトニ躊躇スヘカラス云々

聯隊、聯隊長ハ最後ノ時期ニ至ルマテ若干部隊ヲ手裏ニ貯ヘ終ニ軍旗ト共ニ突撃ヲ實施スルモノトス

之ニ依レハ突撃ハ前線ヨリ起ルカ若クハ後方ヨリ發起セラル、カハ全ク狀況ニ關スルモノニシテ、要ハ好機ニ投スルヲ以テ主眼トナサルヘカラス。但シ突撃ト雖、成シ得ル限り統一的ニ實施セラレ其ノ効果ノ増大ヲ計ラサルヘカラサルヤ勿論ナリトス

茲ニ統一のニ實施セラルヘシト言フモ、各隊全ク同時ニ突入スヘキヲ要求スルニアラスシテ、其ノ各個各別ニ發起スルヲ戒メタルモノナリトス。即チ上級指揮官ハ各部各別ノ突撃ヲ避クルタメ各隊ノ協同動作ヲシテ適切ナラシムル如ク指導シ、以テ各隊ハ隣接部隊突撃ヲ決行スルトキハ機ヲ失セス直ニ突撃ヲ實施スル如クナラサルヘカラス、是レ此ノ要求ハ吾人カ最近ノ戰役ニ於テ最モ痛切ニ感シタル所ニシテ、歩兵操典カ「一ノ中隊突撃ニ移リタルトキハ他ノ中隊モ亦直ニ起チテ突撃ヲ行ヒ一步モ後レザランコトヲ期スヘシ。」「大隊長ノ企圖スル突撃實施ニ先チ勇敢ナル中隊突撃ヲ實施セハ此機會ヲ捉ヘテ戰勝ヲ收メンコトニ努力スルハ大隊長ノ責任ナリ若先ニ進ミタル中隊ヲシテ孤立援ケナキニ至ラシムル如キコトアルトキハ全ク大隊戰鬪ノ本旨ニ悖

ルモノトス。」ト教示スルモノ等、實ニ此本旨ニ從ヒテ突撃ヲ實施スルトキハ最前線ノ突撃ト雖、決シテ部分突撃ニ陷ルコト無カルヘク、前後左右全軍協同一致シテ突撃ノ好機ニ投シ以テ成功ヲ確實ニスルコトヲ得ヘシ。(歩兵操典第二部第三十九ヲ併セ參照スルヲ緊要トス)然リト雖、最近ノ戰役ノ實驗ニ基キ、且更ニ將來ノ戰鬪ヲ豫想スルトキ軍事上諸般ノ進歩ハ勿論其ノ敵ノ優秀ナル精神作用ヲ加フルコト有ルハ吾人豫メ覺悟スヘク、從テ其戰鬪ハ韌強性ヲ帶ヒテ執拗頑強ナルヘク一回ノ突撃ヲ以テ直ニ敵ヲ驅逐シ其陣地ヲ奪取シ得ルト必スシ謂ヒ難キモノアリ。

乃チ歩兵操典ハ懇切ニ訓戒シテ突撃ヲ反覆スヘキコトヲ教フ。實ニ勝タサレハ止マストノ精神ハ操典ニ赫灼タルモノニシテ此精神ヲ以テ

攻撃シ而シテ敗退セサル敵果シテ何レニ有ルヤ。

以上ハ火戦ニ次クニ白兵戦ヲ以テスルモノナリ、其他尙夜間戦闘或ハ局地ニ於テ不意ニ敵ト衝突スルコトアリ。斯クノ如キ場合ニ在リテハ突撃ハ火戦準備ヲ行ハス以テ先制ノ利ヲ占ムルヲ要ス、時宜ニヨリ過早ニ戦闘ノ渦中ニ投セサランカタメ短少時間激烈ナル火力ヲ發揚シタル後直ニ突撃スルヲ以テ有利ナリトスルコトアリ。

之ヲ要スルニ吾人ノ經典タル操典ハ攻撃精神ヲ鼓吹シ一意敵ヲ制壓スルヲ教示シ、儼然タル白兵主義ヲ鼓吹要求スルコトヲ知ルヘシ。

(三) 攻撃精神ト突撃戦闘トノ關係

白兵戦ノ指揮前述ノ如シト雖、茲ニ注意セサルヘカラサルハ攻撃精神ト突撃戦術トハ根底ニ於テ差異アルコト是ナリ。白兵ハ吾人ニ前進

ノ氣勢ヲ賦與シ又戦闘ニ最後ノ決ヲ告ケシムト雖、此ノ最後ノ決ヲ告ケシムルモノハ即チ因テ來ル所アルモノニシテ射撃ニアリテ優越ナル火力ヲ發揚シタル後ニ非レハ白兵使用ノ距離ニ到達スルコト能ハサルナク、故ニ突撃トハ火戦ヲ準備シタル後ニ於テ行ハシムルヲ本來トス、若シ射撃効力ヲ無視シ徒ニ攻撃精神ノ奔馳ニ任セテ殆ト過早ニ白兵ヲ使用スルトキハ其結果ハ之亦戰役ニ於テ屬々實驗シタル如キ敗殘ニ歸スルニ戒慎ヲ怠ルヘカラス。

騎兵戰團區分ノ新傾向

騎兵戰術ノ原則ハ戰役後發布セラレタル同操典草案ニ於テ略其ノ歸趣スヘキ所ヲ示サレタルカ如シト雖尙所謂草案ニシテ未タ明カニ制定確立セラレタルモノニ非ス其ノ試驗中ニアルノ状態ニアリ。然ルニ一昨年四月獨逸ニ於テ新騎兵操典ノ發布アリ、定ムル所我草案ト殆ト趣ヲ異ニシ就中其ノ最モ著シキモノ騎兵ノ戰團區分ノ點ニ存スルヲ見ル由來我國騎兵隊ニ於テ實施シ試驗シ來リ現在其ノ一般ノ趨勢トナリ且ツ不日發布ヲ豫想セラレツ、アル新騎兵操典ニ於テモ此ノ戰團區分ニ關スルモノハ草案ト反シテ現在ノ趨勢トナリツ、アル獨逸制定ノモノト其ノ越旨ヲ同ウセルヤヲ聞クコト今ヤ動スヘカラサル傾向ナルモノ

、如シ

即チ茲ニ聊カ騎兵戰團區分ニ關スルモノヲ說述シ未タ這般ノ消息ニ接スルコト多カラサル諸研究者ノ參考ニ供セントスル所以ナリ

騎兵對騎兵ノ戰團區分ニ於テ指揮官カ第一衝突ニ於ケル勝利ヲ確實ナラシメンカ爲メ最初ヨリ必要ト認ムル兵力ヲ第一線ニ使用スヘキハ其ノ戰團ノ性質上ヨリ生スル原則ニシテ、之カ爲、中隊ハ固ヨリ聯隊ニ於テモ全力ヲ擧ケテ之ヲ同時ニ使用スルヲ以テ本旨トナス

然リト雖、戰團ニ於テ必要以外ノ兵力ヲ使用シ費消スルハ騎兵戰ニ於テ殊ニ兵力ヲ散亂シテ爾後ノ使用ヲ妨クルト共ニ動作ノ自由ヲ妨ク

ルニ至ルノ不利ヲ生スル又少シトセス

以上ノ二理由ヲ綜合折衷シテ得ヘキ結論ハ次ノ如シ

「勝利確實ナリト信認スヘキ兵力ヲ先ツ使用シ他ハ之ヲ後方ニ控置シテ勝利ヲ全クシ且不利ノ事變ニ備フルヲ要ス」

翻ツテ尙一方ヨリ論スルトキ、方今ノ戰鬪ニ於テ敵ノ兵力及部署、攻撃方向等ヲ適時明確ニ知得シ得サルハ普通ノ状態ナルト、然モ乘馬戰ニ於ケル戰鬪ノ經過ト結果ハ最後ニ投入増加スル密集部隊ニヨリテ勝敗ヲ左右スルハ古來實戰ノ教フル所ニシテ、此二個ノ理由ヨリスルトキハ騎兵戰ニ於テモ戰鬪實行部隊ト豫備隊トヲ區分スルヲ有利トスルノ論旨カ一層其價值ヲ増スニ至ル唯其主力ヲ第一線ニ使用スヘキ原則ハ依然トシテ其根抵ヲ有スルコトヲ知り置カサルヘカラス

之ニ於テ騎兵豫備隊ノ任務ノ主ナルモノヲ考フルニ左ノ三ヶ條ニ包含セラル

- 一、決勝點ニ新銳ノ兵力ヲ増加シ勝利ヲ確實ニス
 - 二、大部隊ニ於テハ廣大ノ戰鬪正面ノ擴張ニ伴フ側面ノ危險ニ備フ
 - 三、敵ノ未タ制壓セラレサル密集部隊ニ對ス
- 以上ノ所論ハ孤立聯隊ニ於テ許可ノ場合ニ於テ一部ノ控置ヲ要スルヲ知ラシムルモノニシテ、此控置部隊ノ配備ハ即チ梯隊ノ區分ト稱スルモノナリ

此梯隊ハ展開間隔ヲ取り之ヲ一側面ニ配列セラル、ヲ常トシ、其ノ用途ハ即チ左ノ如シ

一、敵ノ側面ヲ攻撃ス
 二、敵ノ側面攻撃ニ當ル
 三、要スレハ聯隊正面ヲ擴張ス
 四、第一線ヲ突破シ來ル敵ニ對ス
 而シテ次ニ數線配備タル所謂戰列區分ノ必要ヲ生スル所以ノモノヲ
 究ムルニ、騎兵ハ其部隊ノ大ナルニ從ヒ戰線ノ擴張ハ必然的ニ左ノ顧
 慮ヲ生ス

A、其運動益自由ヲ缺ク
 B、地形ノ制限ヲ受クルノ度益大ナリ
 C、側翼ノ危險愈々増大ス
 右ノ顧慮ニ對シ變化測ルヘカラサル状態ニ應シ有利ナル態勢ヲ保持セ

ントシ其ノ結果動作ノ自由ヲ得ント欲セハ左ノ處置ニ依ラサルヘカラ
 ス、即チ

「數線ノ配置ヲ取り適當ノ時期ニ於テ機ヲ失セス直ニ之ヲ前線ニ加入
 セシムルコト」是ナリ

此ノ數線配置部隊——戰列部隊ノ位置ハ右ノ要求ヨリ之ヲ側方ニ配
 列セサルヘカラサルコト左ノ理由ヨリ生ス

若シ之ヲ重疊シテ配列スルトキハ前線カ反撃ヲ受クルニ當リ後方戰
 列ハ却テ我前線ト混淆シ或ハ躊躇セラレ其ノ渦中ニ吸收セラレ了ルノ
 不利アリ

之カ故ニ騎兵相互ノ戰鬪ニ於テハ常ニ併列的ニ戰鬪ニ加入スルヲ適
 當トシ、大部隊ニ於ケル攻撃前進中ハ數線ノ配列ヲ以テスルヲ最適當

トスルニ至ル、是レ騎兵戰團ノ常習トシテ敵ノ兵力意圖ノ不明ナル狀況ニ於テ我カ行動ノ自由ヲ保有スルコト此ノ方法ノ他ニ求ムルコト能ハサレハナリ、以テ狀況ノ明ナルニ從應シ支障ナク適當有利ナル攻撃ノ配置ニ轉スルコトヲ得ヘシ

然ラハ即チ此ノ戰列配備ノ區分法如何

戰列區分ハ我目的ト戰況ニ應シテ異ルヘシト雖「敵情未タ不明ナル時機ニ於テハ」

(イ) 準備姿勢トシテ兩側ニ配置ヲトルヲ可トスルコトアリ

(ロ) 一側ノ地形通過困難ナルカ若クハ我砲兵ニ依リテ一側ヲ依托セラル、トキハ單ニ其ノ他ノ一側ニ配備シテ足ルコトアリ

「敵情已ニ最初ヨリ明カニシテ之ヲ許ストキハ」

(ハ) 最初ヨリ正面ニ且攻撃ヲ企圖スル方面ニ配置ス

(理由) 而シテ之ニ伴フニ運動ノ快速ヲ以テスルトキハ敵ノ展

開中ニ乘シ之ヲ包圍的ニ攻撃スルコトヲ得ヘシ

之ニ依リテ見ルキハ旅團ノタメ戰列區分ノ規定アルカ爲ニ常ニ規定ノ隊形ヲ以テ行動スルモノト過信スルハ大ナル誤解ニ屬ス、旅團長ハ規定隊形ニアル聯隊ヲ戰況ト目的トヨリ己ノ意圖スル如ク適當ニ部署スルヲ原則トセサルヘカラサルニ至ル。是レ孤立旅團ノ準守スヘキ區分法則ナリトス

之ニ至リテ前述戰列區分ノイロトハトノ二條ヲ考察スルニ旅團以上ノ大部隊カ戰闘スルニ三戰列區分ト併列區分トノ二方法ヲ生スルコト

ヲ知ラサルヘカラス

三戰列區分トハ第一第二戰列——戰鬪實行部隊ト第三戰列——豫備隊トニ區分シ、其ノ第一戰列ハ其兵力ヲ勉メテ強大ニシ第一衝突ニ當リテハ第二戰列ヲ以テ之ト援助協同シ若クハ其ノ結果ヲ増大スルモノニシテ之カタメ多クハ建制部隊ノ分割ヲ免ルヘカラサルモノトナシ、各部隊ハ戰列毎ニ畧、一定セル距離ヲ存シテ排列セラル、モノトス、而シテ其動作タルヤ位置ト共ニ殆ト定型的ナルヲ免レス

併列區分トハ指揮官カ其部下ヲ直轄團隊毎ニ併列使用スルコト是レナリ此ノ區分ニアリテハ指揮官ハ詳細ナル戰術的區處ニ顧慮スルコトナクシテ自己所要ノ豫備隊ヲ區分スル他特ニ戰列ヲ區分スルコトナク單ニ各部隊ニ戰鬪任務ヲ課スルヲ以テ之カ戰鬪展開ノ基礎トスルモノ

ナリ、之カタメ一定ノ形式ニ拘束セラル、コトナク狀況ニ應シ任意ナル様式ヲ選擇シ得ヘク從テ隊形ノ撰擇、側面掩護法及戰鬪加入法等ハ任意ニ命令指導シ得ル範圍頗ル大ナルモノトス

以上ノ説明ハ此兩區分法ヲ比較シ得ヘク、要スル所前者ハ各團隊ハ純然タル戰鬪單位トシテ考ヘ得ル一騎兵團内ニ於ケル一戰列トシテ使用セラレ、後者ニアリテハ各團隊ハ各獨立セル指揮單位即チ一騎兵團内ニ於ケル一ノ戰術單位トシテ使用セラルト謂フニ歸ス、即チ其ノ外形ニ於テ大差ナシトスルモ、其區分ノ精神ニ於テハ後者ハ指揮官ノ獨立動作ノ範圍ヲ擴張シ其團隊ノ混合ヲ避ケ得ルノ利ヲ有スルモノナリ今其ノ後者ノ前者ニ對スル利害ヲ較量スルニ

利

- 一、團結ノ分割ノ不利ナシ
- 二、各部隊ノ使用自由ナリ
- 三、各部隊毎ニ分割シテ適當ノ地區ヲ搜索スルコトヲ得
- 四、長ク敵ニ我攻撃方向ヲ察知セシメス
- 五、各指揮官ハ自己ノ梯隊ヲ編成シ後方ヨリ隨意其ノ増加援助ヲ受クルヲ得
- 六、襲撃後ノ集合容易迅速ナリ

害

- 一、各指揮官ノ協同動作困難ナリ
- 二、分離的部分攻撃ニ陥ルノ憂アリ

之ニ反シ戰列區分使用ノタメニハ左ノ要求アルニ非レハ其ノ指導有利ナル能ハス

- A. 指揮官ハ自己ノ部隊並ニ敵ヲ少クモ或ル程度マテ通視セサルヘカラス
- B. 敵ノ兵力企圖等ニヨリ我行動スヘキ地域地形ヲ熟知シアラサルヘカラス
- C. 敵ノ砲兵ニ就テ偵知シアラサルヘカラス

然ルニ方今ノ騎兵ハ火器ノ威力ノタメ開豁地ヨリ驅逐セラシテ成ルヘク蔭蔽物ヲ求メ且ツ勉メテ地形ヲ利用スルカ故ニBノ要求タル敵ノ兵力企圖等ヲ推知シ得ルコト困難ニシテ之カタメ左記條項ハ畢竟スル

ニ到底一指揮官カ全部隊ノ指揮ヲ統一ナラシムルハ殆ト不利ナルニ至ラシム 即チ

イ、通視シ難キ地形

ロ、敵情ノ不明

ハ、豫期セサル不意ノ衝突

ニ、迅速ナル戦闘ノ經過

是ナリ

加之 分離シテ行進スル大部隊ヲ同時ニ戦闘地區ニ到達セシムルノ困難ナルコト。敵火ノタメニハ分離シテ戦闘ヲ準備セサルヘカラサルコト。ニ想到セハ 騎兵ハ指揮ノ單位毎ニ使用セラレ戦闘ハ下級指揮官ノ獨立動作ヲ緊要トスルハ自然ノ結論ナリトス

以上ノ論旨ハ實際ニ於テハ併列區分ヲ普通トシ戰列區分ヲ例外トセサルヘカラサル新傾向ヲ生スルニ至レル理由ナリ

以テ近キ將來ニ於テ發布セラルヘキ我騎兵操典ニ於テモ併列區分ヲ以テ本旨トセラル、ヤニ傳聞スルモノ其ノ因テ來ル所ヲ推知スルニ難カラサル所以ナリトス

原則之葉 第五篇終

明治四十四年七月十二日印刷
明治四十四年七月十五日發行

不許複製

正價金拾五錢

編纂者 安西理三郎
東京市四谷區本村町九番地

印刷者 松澤 玨三
東京市麴町區下六番町十七番地

印刷所 同勞舍活版所
東京市麴町區下六番町十七番地

東京市四谷區本村町九番地

發行所 菊地屋 軍事學指針社

振替口座東京九〇三二番

原則 是てわらぬか
問答

各册(定價金參拾錢
郵税金四錢)

改訂 第一集
再版 第二集
三版 第三集
三版 第四集
再版 第五集

▲步兵聯隊ト其活動 全一册 定價金參拾五錢 郵税金四錢

▲最新地形學 詳說 全一册 定價金六拾五錢 郵税金六錢

▲基本射擊教育 全一册 定價金參拾錢 郵税金四錢

▲命中ト効力 全一册 定價金五拾錢 郵税金六錢

▲軍隊統御法 全一册 定價金貳拾錢 郵税金貳錢

▲新步兵操典引證初級戰術研究錄 定價金五拾錢 郵税金六錢

▲野外引證初級戰術研究錄 定價金四拾五錢 郵税金六錢

▲兵器學常識問答 定價金四拾錢 郵税金貳錢

▲新舊(改正)對照步兵操典 定價金四拾錢 郵税金六錢

▲新兵野外教育計畫 定價金參拾錢 郵税金四錢

▲測板測圖必携 附手簿 全一册 定價金貳拾錢 郵税金貳錢

▲軍隊教育計書實施進度對照前編正價四拾錢郵税金五錢
後編正價三拾錢郵税金四錢

▲三版兵棋必携附錄(行軍長徑一例)
兵機隊標一覽定價金貳拾五錢
郵税金四錢

▲新兵器學最新全一冊 定價金八拾錢
郵税金四錢

▲兵卒教育學科問題集教育全一冊 定價金拾五錢
郵税金貳錢

▲夜間演習教育方案 全一冊 定價金三拾五錢
郵税金四錢

東京市四谷區本村町九番地

發行所 菊地屋 軍事學指針社

振替口座東京九〇三二番

現地講話

定價金五十錢
郵税金四錢

該書は新歩兵操典其他の原則規定を基礎とし現地に於て諸兵連合の戦術を研究したるものにして本書の特色とする所は主として高級指揮官より順次各階級に於ける幹部の決心處置を連繫的に研究し且つ緊要なる研究事項は詳細に亘り講話的に講究しあるにあり殊に現地講話統裁法に關し特に着意記載しあるを以て獨り戰術研究者のみならず戰術統裁者の爲めにも有益なる參考書たるを信す

東京市四谷區本村町九番地

發行所 軍事學指針社

振替口座東京九〇三二番

緩生著

最新軍隊教育

紙數四百餘頁
附表三枚
定價金八錢
郵稅金十錢

今日ノ時代ハ昨ノモノニ非ス人之ヲ知リ之ヲ口ニス然リ而テ其爲ス所
ノモノニ就テ之ヲ睹レハ其覺悟其眼識將タ其途ニ於テ依然トシテ舊ク
且ツ卑クシ而カモ形ニ走リ本ヲ失フモノ夥シ夫レ軍隊ノ事一ニ人情
意ノ上ニ立ツ須ラク先ツ之ヲ究メ之ヲ察シ以テ臨マシムルハアルヘカ
ス時弊ノ趨クトコロ之ヲ表ハスモノアルモ唯言辭ヲ列ネテ實際ノ施設
ヲ外ニシ或ハ時間ヲ計算シテ計畫ト稱スルノ類何レモ當ラス反テ之ヲ
害ス茲ニ本書ノ出ツルアリ正ニ之ヲ濟フテ其眞ヲ得セシムルモノナリ
記ス所教育ノ計畫、各種教育ノ要領、新兵教育ノ打合、檢閲軍人ノ信
仰ト精神教育、個性ノ研究、内務ノ躉等根本ヲ明ラメ詳ニ其道ヲ講セ
ル西人言ヘルアリ教育者ハ教育ナリト又自家修養ノ資料タルモノ希フ
ク待テ在ケ著者ノ爲人ハ別ニ云ハス就テ察セヨト

東京市四谷區本村町九番地